

岐阜県の森林・林業

# 森もり林のたより

100年先の森林づくりスタート!

No.763  
2017 April

4

FREE

ご自由にお持ちください。



●100年先の森林づくりでは、豊かな環境・資源・文化を育む森林をつくるため、森林の循環利用を進めるとともに、環境保全や観光振興、生活環境の保全など多様な森林づくりを進めます。

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail [sanrinag@quartz.ocn.ne.jp](mailto:sanrinag@quartz.ocn.ne.jp)

<http://www.g-forestry.or.jp> (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

開催日	行事名等	内容等	開催場所 問い合わせ先
3月1日(水)~ 5月31日(水)	緑の募金(春期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「緑の募金で ふせごう 地球温暖化」をスローガンに家庭募金、企業募金、職場募金などを実施しています。</li> <li>●4月1日(土)に「道三まつり」の会場で街頭募金を行います。</li> </ul>	街頭募金：岐阜市若宮通り 公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 〒500-8356 岐阜市六条江東2-5-6 TEL 058-273-7577 FAX 058-273-7547
3月22日(水)~ 4月13日(木) (図書館休館日を除く)	平成28年度 岐阜県緑化運動 ポスターコンクール 入賞作品展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成28年度岐阜県緑化運動ポスターコンクールにおける入賞作品40点を展示</li> <li>●入場無料</li> <li>●時間：図書館の開館時間</li> </ul>	岐阜県図書館 楽書交流サロン (岐阜市宇佐4-2-1) 岐阜県林政部恵みの森づくり推進課 TEL 058-272-1111 (代表) FAX 058-278-2702
4月10日(月)	平成29年度 森林文化アカデミー 入学式	<ul style="list-style-type: none"> <li>●内容：第17期生の入学式を行います。</li> <li>●時間：10:30~(予定)</li> <li>●参加料：不要</li> <li>●出席予定者：森林文化アカデミー教職員、在校生、入学生、招待者、入学生の関係者等</li> </ul>	森林文化アカデミー 森の情報センター (美濃市曾代88) 森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525 FAX 0575-35-2529 E-mail info@forest.ac.jp URL http://www.forest.ac.jp/



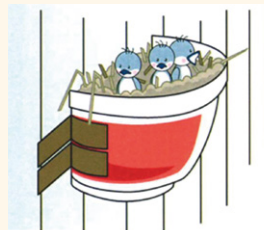
## 野鳥のヒナを拾わないで！

第2回

春から初夏にかけては野鳥の子育てシーズンです。この時期には、地面に落ちているヒナを見かけることがあります。ヒナは生きるための生存競争の中で、他のヒナに押し出されて巣から落ちてしまうことがあります。でも、決して自宅などに持ち帰らないでください。野生鳥獣を勝手に飼うことはできません。

### ツバメの巣が落ちてしまった！

カップ麺の容器やざるにちぎった新聞紙などの代用巣材を敷いて、その中にヒナを入れ、元の巣の位置から近い場所にひもやガムテープで固定しておく方法があります。



#### 【カップで補修したツバメの巣】

- 補修をするときは、必ず大人がやりましょう。
- 作業の後は、石鹸を使って手洗いをしましょう。

【岐阜県動物愛護センター 岡野 司】 ●詳しい内容を知りたい方は TEL 0575-34-0050 岐阜県動物愛護センターまで



市況	22
林業者向けお知らせ	21
森林を取得したときは市町村への届出が必要です！	21
研究コーナー 減圧して木材を速く乾かす	20
平成28年度岐阜県治山林道研究発表会	18
(発表紹介)	16
平成28年度岐阜県森林・林業関係合同発表会	14
普及コーナー 可茂地域における普及実績について	13
国有林の現場から(7)	12
ケーススタディ地区を活動のテーマパークに く 民国が連携した活動を集中的に実施く	11
わがまちの森林・環境行政(4) 白川町の森林づくり	11
岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校	11
木の香るぎふの施設(52)	10
プレッシャーに勝った、オオクワガタ	10
山のおしゃまむし(309)	9
子育てママがつなげる人と森く 飛騨市の木育を広める会く	8
平成29年度『清流の国ぎふ森林・環境税』を活用した 事業の全体計画	8
地域の人	7
森林と人を活かす知恵(52) 91・3%×66%＝31%	6
地域森林監理士制度を創設しました	6
山の歳時記(140) クロモジ	5
ぎふの木を使った家づくり支援制度のご案内	5
「第3期岐阜県森林づくり基本計画」がスタートしました	4
野鳥のヒナを拾わないで！(2)	3
イベントカレンダー(一般向け)	2

岐阜県の森林・林業 News of the forest



表紙 ● 伐採跡地でのヒノキのコンテナ苗の植栽

# 「第3期岐阜県森林づくり基本計画」が スタートしました

県では、平成十八年に制定した「岐阜県森林づくり基本条例」に基づき、五年間を計画期間とする「岐阜県森林づくり基本計画」を策定し、計画に基づいた施策を進めてきました。昨年度、第2期基本計画の終期を迎え、本年度から新たに「第3期岐阜県森林づくり基本計画」がスタートしましたので紹介します。

今回の計画の特徴として、これまで取り組んできた林業経営重視の「生きた森林づくり」と、環境保全重視の「恵みの森林づくり」に加えて、新たに「二〇〇年先の森林づくり」に取り組んでいきます。戦後の拡大造林によって植栽された人工林が本格的な利用期を迎えていることから、主伐・再造林によって森林資源を積極的に循環利用していく必要がありますが、同時に、造林不適地まで植栽された人工林を見直し、本来あるべき望ましい森林の姿へと誘導していくことも考えていかなくてはなりません。このため、県内の全ての民有林を対象に、イメージ図のように「木材生産林」「環境保全林」「観光景観林」「生活保全林」の四つに森

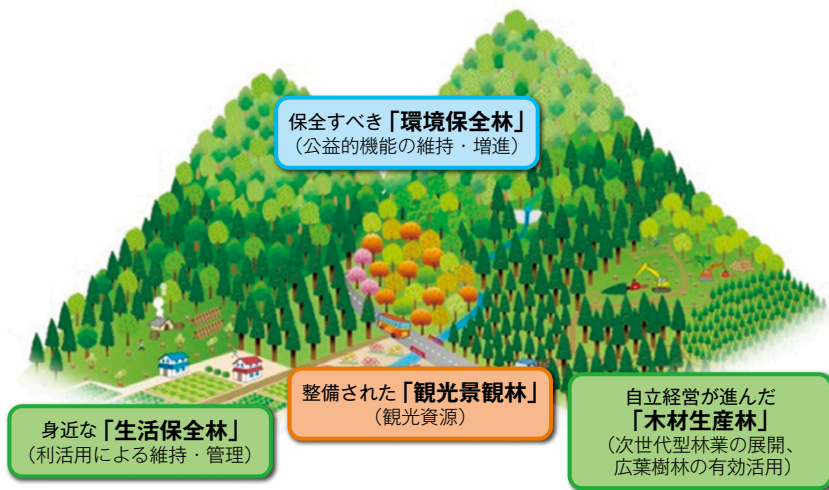
林を区分し、それぞれの区分に応じて、整備に必要となる各種施策を実施していきます。

また、人口減少社会を見据えて県外、さらには海外への県産材の販路拡大や、地産地消型の木質バイオマス利用、総合拠点施設整備等による「ぎふ木育」の推進、県独自の専門人材である「地域森林監理士（本誌7ページ）」の育成・認定など盛り沢山の計画内容となっています。

今からちょうど三年前に策定プロジェクトチームを立ち上げ、時間をかけて検討を重ねてきたものです。計画の策定にあたっては、市町村、森林組合、林業事業者などの職員を対象とした圏域別説明会や、清流の国ぎふ森林づくりサポーターへの説明会、パブリックコメントの実施などにより、七〇〇件を超えるご意見をいただきました。そして、計画に反映するもの、計画には反映しないが施策に反映していくもの、すぐには難しいが今後検討していくものなど、一つ一つのご意見に対する対応を考えてきました。計画書は県のホームページからダウンロードできますし、概要版の冊子

を作成し、いろいろな機会に配布する予定です。今後五年間で林政部が実施していく施策の基本となる計画ですので、是非、ご一読いただけたらと思います。

【林政課 三輪哲司】



100年先の森林づくり(将来の望ましい森林の姿)

●詳しい内容を知りたい方は  
TEL 0581-27218470 林政課まで



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

4月に山で咲く花もいくつかわりませんが、私が好きなものにクロモジがあります。

クロモジについては2011年4月の「森林のたより」にも楊枝の話を書き記しましたが、今回は別の話をしましょう。

落葉低木であるクロモジは低地では花と葉が同時に展開し、小枝の節に散形花序を出して淡黄緑色の小さな花を多数つけますが、高地では葉が展開する前に花を咲か

せます。

近年、全国各地でこのクロモジの小枝を煎じ、お茶として飲む人が増えており、富山県南砺市利賀地域では、農商工連携ファンド事業としてクロモジ茶の商品化をしています。軽く煮立たせたクロモジ茶は味にクセが無く、飲むと口のなかにいい香りが広がります。樹皮や葉に含まれるテルピネオールやシネオールは抗炎症作用があるため、胃腸や喉の炎症に効くとされています。また抗菌・殺菌作用のあるリモネンも含まれ、抗アレルギー作用があるとされるテルピネオールとの相乗効果と、新陳代謝を助けるリナロールも含まれるため入浴剤としても利用されてきました。

ていた主成分で、高山市の正プラズ株式会社では、高山市周辺で採取されたクロモジの枝葉から抽出された精油 (yucca) を生産販売しています。

昨年、揖斐川町東横山にある「徳山民俗資料収蔵庫」を見せて頂いたときのこと、収蔵品のあるコーナーで、クロモジを利用した輪かんじきをみつけました。かんじきは湿った雪の上を歩くときの沈み込みを少なくするためのものですが、その素材がクロモジなのです。

旧徳山村では雪崩避けの呪文として、「まえクロモジに、あとポーシ」と唱えたそう、同じように旧坂内村でもユキノドウという雪の妖怪を撃退する呪文として、「先クロモジに後ポーシ、あめうじがわ(黄牛の皮)の八つ結ばえ、締めつけ履いたら、如何なるものも、かのうまい(敵うま

い)」と唱えました。

つまり輪かんじきの前側をクロモジ材で、後ろ側をヤマボウシ材でつくれば、壊れることなく走って逃げてこられることを口伝していたのです。

早春の山々で目立つことなく咲くクロモジの花、そんな花を見つけたら、ご先祖さまが伝えてくれた山の生活文化を思い出して欲しいのです。



▲南砺市利賀地域で商品化されたクロモジ茶

# ぎふの木を使った家づくり 支援制度のご案内

岐阜県では、安心・安全な家づくりに県産材を積極的に利用いただくため、新築の際、柱や梁など構造材に「ぎふ性能表示材」、床・壁など内装材に「ぎふ証明材」又は「ぎふ性能表示材」を一定量以上使用する方、また改修の際、内装材に「ぎふ証明材」又は「ぎふ性能表示材」を一定量以上使用する方に助成を行っています。

平成29年度は、県内及び県外の新築対象棟数を拡大するとともに、店舗等については改修に加え、新築内装も助成対象とするなど、一部内容を拡充しています。

募集方法は先着順とし、募集棟数に達した時点で締め切りとなります。

応募状況、申込み条件、必要書類など詳しくは、県のホームページでお知らせしています。

ぎふの木で家づくり [検索](#)

## ◆安心して使える岐阜県産の木材

「ぎふ証明材」とは？  
岐阜県内で合法的に伐採された木材です

「ぎふ性能表示材」とは？  
「ぎふ証明材」であり、JAS規格に準じて県が定めた測定・表示基準をクリアした品質・性能が確かな木材です

## ◆ぎふの木で家づくりローン支援制度(住宅ローン金利優遇)

ぎふの木を使った新築助成の要件を満たす住宅は、住宅ローン「フラット35、フラット35S」など、金利優遇の対象となります(愛知県、三重県に建築する住宅も対象)。※上棟前に申請が必要  
取り扱うローンなど詳しくは、協力金融機関にお問い合わせください。

<適用金利> 店頭基準金利から全利用期間マイナス0.2%(手数料定額型)ほか  
<協力金融機関> 大垣共立銀行、十六銀行、岐阜信用金庫、大垣西濃信用金庫、東濃信用金庫、関信用金庫(金融機関コード順)

## ○助成内容一覧

※ 下線部は、昨年からの変更箇所

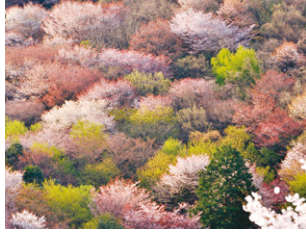
区分	住宅			店舗
	新築	改修	新築・改修	改修
建築場所	県内	県外	県内	県内
助成額	(構造材) 20万円	(構造材) 20万円	(内装材) 4万円～最大16万円	(内装材) 4万円～最大12万円
	(構造材+内装材) *内装材に「ぎふ証明材」使用 30万円 *内装材に「ぎふ性能表示材」使用 32万円 ※ぎふ性能表示材使用加算(2万円) 内装材に50㎡以上「ぎふ性能表示材」を使用する場合に加算		※ぎふ証明材20㎡以上使用する場合、 1㎡あたり2千円(4万円～最大10万円)  ※ぎふ性能表示材使用加算(8千円～最大2万円) 内装材に「ぎふ性能表示材」を20㎡以上使用する場合、 1㎡あたり400円加算	
			※バリアフリー床改修加算(最大4万円) 段差解消のため、ぎふ証明材を使用し、 住宅の床改修を実施する場合、1㎡ あたり2千円加算	—
助成対象	建築主が居住する戸建て木造住宅  ※県外から県内へ移住・定住のため、 住宅を新築する方を含みます	建築主が居住する戸建て木造住宅  ※住宅施工者等による見学会を2月末までに実施し、岐阜県産材のPRを行うことが条件	建築主が居住する住宅  ※県外から県内へ移住・定住のため、 住宅を改修する方を含みます	多くの県民の利用が見込まれる商業・観光・医療施設等(賃貸物件を含む)  ※対象 飲食店、理容・美容店、医療施設 洋・和菓子店、物品販売店など 〔事務所、客室、モデルハウス、 木材関係販売店などを除く〕
対象棟数(先着順)	■県内 前期 新築:120棟 新築内装:60棟 ※上棟:3月1日～9月30日まで 後期 新築:未定 新築内装:未定 ※上棟:10月1日～H30年2月28日まで  ■移住定住 全期間 新築:20棟 新築内装:12棟	■県外 全期間 30棟  ※1施工者あたり5棟まで	■県内 全期間 20棟  ■移住定住 全期間 10棟	■県内 全期間 5棟
県産材使用条件など	(構造材) ・構造材の80%以上、梁・桁など横架材に6㎡以上「ぎふ性能表示材」を使用	—	(内装材) ・内装材(フローリング、壁板、天井板等)に20㎡以上「ぎふ証明材」を使用	—
その他条件	(内装材) ・内装材(フローリング、腰壁、天井板等)に50㎡以上「ぎふ証明材」を使用	—	・バリアフリー床改修加算 「ぎふ証明材」を使用し、住宅の床の段差を施工で5mm以下(設計で3mm以下)に解消すること	—
申請先	県内の工務店等(支店、営業所でも可)が施工 構造材や内装材に対する国や県などの他の補助金、又は利子補給を受けていないこと	—	—	—
申請先	住宅が所在する地域の県農林事務所林業課(上棟の14日前までに申請)	県庁 県産材流通課(上棟の14日前までに申請)	住宅が所在する地域の県農林事務所林業課(内装改修工事の完了後に申請)	施設が所在する地域の県農林事務所林業課(工事の完了後に申請)
申請開始	■申請開始時期 4月3日	■申請開始時期 5月10日	■申請開始時期 4月3日	■申請開始時期 4月3日

【県産材流通課 川畑佳代子】

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8487 県産材流通課 消費対策係まで

● サクラサク

桜の季節が巡ってきました。冬から春を迎え、山々の風景の中に薄いピンクの花を見つけることが出来ます。私たちはその花の美しさにどれだけ多くの元気を頂いて来たことでしょうか。日本には四季があり、私たち日本人はその移ろいゆく美しさに惹かれます。移ろいゆくすべてに惹かれる…それは、日本人の多様性を受け入れる和の思想であり、四季折々で変化していく森林の姿から学んでいると私は思うのです。



● 91・3%

さて、皆さんご存知の通り66%（※1）は日本の森林率、31%（※1）は木材の自給率です。

では、91・3%とは、何の数字でしょう

91・3% × 66% = 31%

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 松井 勅尚

● より多くの人の意識を森林へ

うか？実は日本の都市部に集中している人口の割合です。東京都には日本の人口の10分の1が集中しており、今も増え続けているのです。岐阜県をみると、岐阜市の人口は約40万人。県全体のなんと5分の1が集中しているのです。これは日本では当たり前のようになっていますが、先進国の中でも前例がないことのようにです。週末の過ごし方はショッピングモール。山や川には意識が向かないのが現実です。日本人の意識はどこまで都市へと向かって行くのでしょうか？

より多くの人の意識を森林へと向けるためには、都市部での木育の拠点が必要であるという考えから、岐阜県は、2019年4月開館を目指し、「森の恵みのおもちゃ美術館(仮称)」を設置することを決めました。おもちゃは子どもだけの特権ではなく、どの世代でも興味を引くものであるに違いない。そんな思いを胸に、木のおもちゃに特化した施設で、山や川への無関心層に関心を持ってもらうためには、どのようなアプローチをしたらいいのかを模索してきました。

● 「ぎふ木育カフェ」

そのアプローチの1つとして「ぎふ木育カフェ」をスタートしました。

「ぎふ木育カフェ」とは、木のブローチや葉等、木の小物を作りながら、お喋りをする場を設け、人と人、人と森林の距離を近くする実験的試みで2015年から実践し、プログラム開発してきました。対象者は主に未就学児のお子さんを持つ子育て中のお母さんたちです。内容は、岐阜県の森林率や、木と共に暮らしてきた生活が伝承されなくなった課題等を伝えた後、「昔の遊びは？」「山や川の自然体験の思い出は？」「あったらいいな…こんな森の恵みのおもちゃ美術館(仮称)」！等、3つのテーマでお喋りします。

木育カフェで最も重要なルールは、人の話はよく聞き、否定しないこと。そうすることで人は安心して話すことができます。誰の話も受け入れる…それは多様性を認めることにつながっているように思います。以下のような感想がありました。

● たくさんのお母さん達とお話しができて

楽しんでました。木を削るのも普段なかなかできない体験で楽しかったです。

● 岐阜県がこんなに森林が多いことを初めて知りました。

実践して感じたことは「現代版井戸端会議」。子育て中のママ達のコミュニケーションの場となり、洗濯や洗い物をしながら…の代わりに、木で作りがらの喋り場となりました。



加納西認定こども園での「ぎふ木育カフェ」風景

● 今後

91・3%の都市部の人々の意識が、日本の意思決定に大きく影響します。つまり91・3%の人が山との繋がりを意識することが、引いては木材自給率を引き上げ、ただの「山」を「宝の山」へと変えてくれると思うのです。「ぎふ木育カフェ」は、本年度は飛騨や東濃へエリアを拡大し、年間8回実施する予定です。

「森の恵みのおもちゃ美術館(仮称)」が拠点となり、森林人も活かす知恵を岐阜県から全国へ発信していくことを切に願っています。

※1. 林野庁ホームページ「森林・林業学習館」より

# 「地域森林監理士制度」を創設しました

県では、第3期岐阜県森林づくり基本計画（平成29～33年度）における「100年の森林づくり計画」の一環として、市町村や地域の森林づくりを支える県独自の人材である「地域森林監理士」の育成及び支援に取り組むこととしています。

本号では、「地域森林監理士制度」について紹介します。

地方分権の流れの中で、森林・林業行政においても、森林現場に近く森林所有者に最も身近な市町村へ様々な権限が移され、それに伴い市町村の業務量も大幅に増加しています。具体的な業務の例として、市町村森林整備計画の策定、

伐採届出制度や森林経営計画制度の適切な運用、公有林管理等があります。さらに森林法改正による林地台帳整備や100年先の森林の姿を見据えた森林づくり等の業務も加わりました。

このように森林・林業行政における市町村の果たす役割が益々重要になってきていますが、市町村では森林・林業に精通した職員が少なく、マンパワー不足の状況にあります。市町村行政を円滑に進めるためには森林行政を支援する仕組み、人材が不可欠です。

こうした状況を踏まえ、県では「地域森林監理士制度」を創設し、その一歩として、地域の森林づくりを支える専門人材の育成を今年度からスタートさせます。

具体的には、森林の管理及び経営に必要な専門的知識等を有する人材「地域森林監理士」を育成・認定し、市町村からの業務委託等による林務行政支援や私有林経営への助言等を行っていくことにより、地域が主体となった森林づくりの推進を図っていくというものです。

人材養成の目標として、今後5年間で15人の認定を目指しています。

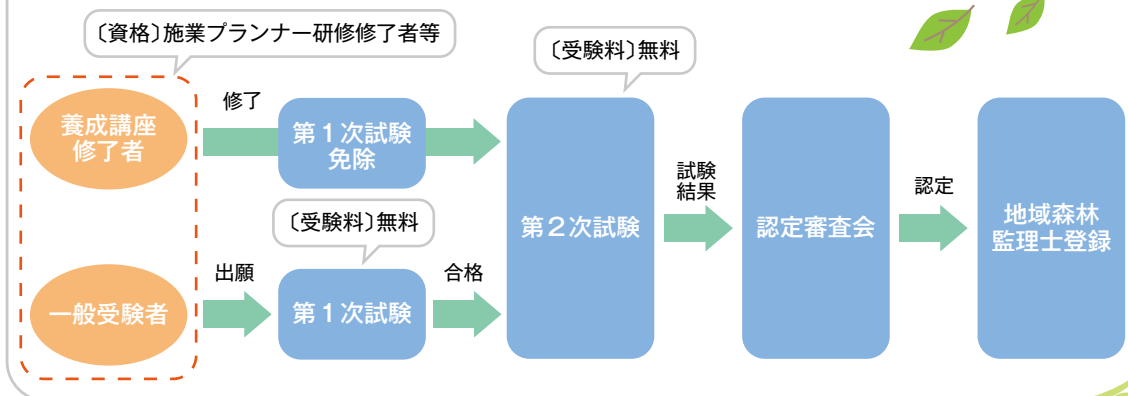
平成29年度の取組みとして、森林文化アカデミーにおいて養成講座を開設するとともに、受講修了者等に対する認定試験等の実施を計画しています。

【森林整備課 荻巣 勝俊】



## 地域森林監理士制度（試験等）の概要

※内容について変更となる場合がありますのでご了承ください。



● 詳しい内容を知りたい方は  
TEL 058-272-1111 内線(3025)林政課まで



上段左より 副会長 盤所さん、会長 池田さん、沢さん  
下段左より 永堀さん、堀辺さん

# 子育てママがつなげる人と森 ～飛騨市の木育を広める会～

会長 池田 明美さん 副会長 盤所 杏子さん  
沢 あずささん 永堀 知鶴さん 堀辺 未由さん

## 発足のきっかけは？

飛騨市の木育を広める会は、昨年5月の発足以来、5名と少ないメンバーにもかかわらず、精力的に活動しています。メンバーの出身地も多彩で地元出身者は1名で、3名の方は県外からです。だからこそ、飛騨市の魅力を感じ、子育てママならではの活動に繋がっていると思います。

2016年3月に岐阜県と飛騨市が共同開催した「木のおもちゃ博・木育キャラバン」において、飛騨市内で木や森に関わる職業の方や、保育士、木育に関心のあるボランティアの方などが集まり、一緒にイベントを作り上げました。そのイベントを通して、改めて飛騨市の持つ自然の魅力や素晴らしい職人の技に感動し、「一度限りのイベントで終わらせてはもったいない！」とボランティアで参加していた主婦2名で行動を起こしたのがきっかけです。

全国的に木育という言葉は広がっており、「木のおもちゃで小さな子どもの感性を育てる」というのが一般的なイメージだと思います。私たちは、小さな子どもはもちろん、中学生以上や子育てに携わる親まで幅広い世代を対象にした、「飛騨市ならではの木育」を築くことを目指して、模索しながら活動しています。

現在はメンバー全員が小さな子どもを持つ母親です。これから飛騨市で子どもを育てる上で、どんな風に成長してほしいか、どんな町になっていくと良いか、という視点を持って、木育がそれを実現する一つのツールになればと考えています。

## 現在の活動内容は？

現在は主に「木のおもちゃ広場」と「ワークショップ」の2本柱で活動しています。

### おもちゃ広場

飛騨市内の子育て支援センターで、主に0～3歳の子どもを対象に木に触れ、木の温もりを感じてもらえたらと、岐阜県産のおもちゃを中心とした「木のおもちゃ広場」を開催しています。(月に1回程度/28年度は合計12回実施)

人気のおもちゃの一つが「めたもつく」。立方体、直方体の木にたくさん穴が開けてあり、そこに大小の木の円棒を刺して遊びます。「これは鳥だよ」「これは電車だよ」と見立てながら組み立てたり、縦横にどんどん伸ばしていけることを楽しんだり、遊び方は無限大！子どもたちの自由な発想に驚かされます！  
0歳の赤ちゃんだと、「まだおもちゃなんて早いし、木

の魅力もわからないんじや。」と思う方もいるでしょう。それでもいいんです！プラスチックのおもちゃにはない、柔らかさ・匂い・重さを、五感で感じてくれることが第一歩。おもちゃで創造力を育てるとともに、「このおもちゃは私の町のあの木からできてるんだ！」など、木を身近なものに感じてもらうきっかけになれば嬉しいですね。

### ワークショップ

森林に関わる方々の横の繋がりを作ることで、そして職人や森林のプロから市民が直接学ぶ機会を提供することを目的として年5～6回開催しています。

対象者は内容に合わせて子どもから大人まで幅広く、木工品製作、製材所見学、大工の技を学ぶ体験など多岐にわたっています。

12月には「飛騨市の建築・まちなみを残す会」と共同イベント「もくチャレ！」木を学び木で遊ぶ「一日」を実施しました。飛騨の匠の技を持つ若手大工さんと高校生の共同作業での畳ベンチの製作が行われ、完成品は高齢者施設へ寄贈。また、10m木製巨大シーソーやかんなくずプー、チョウナを用いた丸太はつりの実演など計10ブースを開設し、約300名以上の方に楽しんでいただくことができました。



もくチャレ！

## 今後の展開は？

発足してからここまで、飛騨市役所・子育て支援センターをはじめ、地元の木工職人さん、大工さん、製材所さんなど多くの方々に応援していただきました。今後もみなさんと連携し、飛騨の匠の文化や技・木の温かみを感じ、学べる機会をどんどん作っていきたくです。また、飛騨市の宝である木や森との「共生」を目指し、持続可能な山作りに参加できる催しや、林業に携わる方々の紹介を通して、遠ざかりつつある「人と森との距離」を縮めていけたらと考えています。

具体的には今年新しくチャレンジしていきたいことは2つ。私たちの会の大きな強みは、全員が「子育てママ」であるということ！その強みを活かして、ママだからこそ考えられるおもちゃの製品開発に取り組みます。子どもが舐めても安心で温もり溢れるおもちゃを、多くのお母さんの意見を取り入れて生み出したいですね。  
もう一つは、昨年度よりも活動フィールドを広げ、より

自然に近い「森遊び」。どんぐりを拾って鉢に植えて苗づくりをしたり、木の実と落ち葉を拾って工作をしたり、森から学ぶ教室や木育キャンプなども実現したいです。  
飛騨市の市章である水の波紋のように、「木育」を通じて多方面教育・産業・防災等につながる事業が繋がります。まっとういく中で、新たな飛騨の森の魅力を発見していきたいと思っています。

## ●ワークショップ・イベント開催実績

- 2016年6月 木工職人に学ぶワークショップ①  
カッティングボード作り
- 8月 ひだの森や木をもっと知ろう！  
(製材所見学・勉強会等)
- 8月 文化村サマーフェス2016  
「木と葉っぱのブレイランド」  
(葉っぱスタンプ&自由工作)
- 10月 河合宮川幼児学級  
(森の生物等についてのお話/木の輪押し製作)
- 10月 木工職人に学ぶワークショップ②  
立体フォトフレーム作り
- 12月 もくチャレ！木を学び、木で遊ぶ一日  
(高校生と大工による畳ベンチ製作、他)
- 2017年3月 木の雛人形作りワークショップ  
3月 広葉樹のまちづくりシンポジウム  
(木のおもちゃ広場、木の雛人形作りワークショップ)



木のおもちゃ広場 カッティングボード作り



ひだの森や木をもっと知ろう

【飛騨農林事務所 林業普及指導員 中谷和司】  
●詳しい内容を知りたい方は  
TEL 0577-133-1111 内線(492)

飛騨農林事務所まで



# 平成29年度『清流の国ぎふ森林・環境税』を 活用した事業の全体計画

平成29年度からの『第2期清流の国ぎふ森林・環境税』を活用する事業についてお知らせします。  
平成29年度は税収見込み12億2300万円に、平成28年度末時点の基金残額を合わせた、合計12億8500万円を財源に次の各事業を実施します。

事業名	事業の概要	計画量	予算額 (千円)
<b>① 100年先の森林づくりの推進</b>			
環境保全林整備事業	水源林、奥山林等の間伐を行う市町村や林業事業者への助成	2,100ha	284,000
公有林化支援推進事業 <b>拡充</b>	荒廃の恐れのある森林の公有林化を行う市町村への助成等	20ha	20,000
里山林整備事業 <b>拡充</b>	不用木除去や危険木伐採など里山林・生活保全林の整備を行う市町村等への助成	650ha	195,000
森林地域外危険木除去事業 <b>新規</b>	森林計画区域の外にある危険木除去を行う市町村への助成	10箇所	5,000
観光景観林整備事業 <b>新規</b>	景観としての価値が高い観光道路沿いの森林の整備を行う市町村への助成	70ha	50,000
<b>② 自然生態系の保全と再生</b>			
ニホンジカ、イノシシ等の捕獲推進事業 <b>拡充</b>	ニホンジカ、イノシシ、カワウの捕獲等	7,700頭(シカ・イノシシ) 10団体(カワウ) 600羽(カワウ等)	147,000
捕獲の担い手確保推進事業	有害鳥獣の捕獲の担い手となる市町村職員育成への助成	6人	3,000
野生動物総合対策普及推進事業	大学と連携し、鳥獣被害対策についての研究等	1機関 500人 (啓発事業への参加者数)	21,000
流域清掃活動推進事業	地域住民と連携し、河川の清掃等を行う団体等への助成	53河川	30,000
ため池外来種駆除事業	ため池の生態系を回復するための外来種の駆除等への助成	3箇所	2,500
水田魚道設置推進事業	魚の往来のため水田と排水路をつなぐ魚道の設置	1地区	3,000
生態系保全団体支援事業	里地里川の生態系保全に取り組む団体への助成	5団体	10,500
生態系保全市町村支援事業	スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の駆除等を行う市町村への助成	7市町村	7,000
河川魚道の機能回復事業	河川魚道を点検し堆積土砂の除去等の支援	672箇所(点検) 80%(健全魚道割合)	50,000
用排水路・河川落差解消支援事業 <b>新規</b>	魚の往来のため農業用排水路と河川の落差の解消を行う市町村等への助成	1地区	5,000
<b>③ ぎふの豊かな森林・水を活かした環境にやさしい社会づくり</b>			
木質バイオマス利用施設導入促進事業	木質燃料を利用するストーブ等の導入支援	20基(ストーブ) 40t(ストーブでの使用量) 1施設(ボイラー)	35,000
小水力発電による環境保全推進事業 <b>新規</b>	簡易な小水力発電施設の設置	3施設	10,000
<b>④ 人づくり・仕組みづくり</b>			
木の香る快適な公共施設等整備事業	教育福祉関連施設等の木造化、内装木質化への助成	9施設	57,000
ぎふの木で学校まるごと木製品導入事業	学校等に木製の机やイス等を導入する市町村や団体等への助成	1,200個	20,000
県民協働による未利用材の搬出促進事業	住民協働による林内の未利用材の搬出を行う市町村への助成	4,000t	5,000
ぎふ木育拠点整備等事業 <b>新規</b>	「ぎふ木育」の総合的な常設拠点の整備	1施設	150,000
ぎふの木育教材導入支援事業	保育園等にぎふの木を使ったおもちゃや木育キットを導入する市町村やNPO等への助成	60施設	4,000
森と木と水の環境教育推進事業	子どもたちに対する森・木・川についての環境教育・木育の推進	1,000人	12,000
清流の国ぎふ森林・環境税推進事業	森林・環境税の用途をチェックする審議会の開催や森林・環境税の広報PR	一式	6,000
上流域と下流域の交流事業	上流域、下流域の自然環境を理解するためのツアーの実施	15回	8,000
生物多様性に配慮した地域づくり普及推進事業	生物多様性に関する講演会等の開催	5回	2,000
<b>①～④ 共通 地域のニーズに基づいた環境保全活動の促進</b>			
清流の国ぎふ地域活動支援事業	NPO等による環境保全活動への助成	40件	23,000
清流の国ぎふ市町村提案事業	市町村提案型の自然環境保全活動への助成	50件	120,000
<b>合 計</b>			<b>1,285,000</b>

今年度も各事業の取組み状況を毎月掲載していきます。

【恵みの森づくり推進課 吉田 宗平】 ●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(3029) まで



# 山のおじまむし



## — プレッシャーに勝った、オオクワガタ — 【第309回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

昨年6月、I氏と某地へ採集に出かけた。その時の会話。「クワガタムシがいたら知らせて」と私。「写真を撮るのですか」とI氏。「孫にプレゼントしたいから」「飼うのですか」「そうです」。孫とは、目に入れても痛くないY君である。今年から小学1年生だ。クワガタムシを飼うのを楽しみにしているので、何としても採ってやりたい。そんなことでI氏に話しかけたわけだ。I氏は「クワガタムシの飼育は私の父もしていますよ」「え、もしやオオクワガタ」「そうです」。I氏の親は数年前から趣味でオオクワガタを飼育し、卵を産ませて成虫に育て、それに卵を産ませる累代飼育をしているという。オオクワガタは頑強な体に大きな角（大顎＝おおあご）。昆虫界の王様だ。誰もが欲しがらる。私は思わず口に出た。「ワンピース頂けないか頼んでみて」このひと言が後になって、Y君ではなく私に思いもしないプレゼントとなった。3ヶ月後、I氏から大きなオオクワガタが送られてきたのである。それも、4匹（オス、メス各2匹）いた。

× × × ×

私は嬉しくなった。当初はY君と一緒に飼おうと思ったが止めた。自分が飼育し、卵を産ませようと思ったからである。大きな角を広げて、相手を威嚇しているような姿。迫力があつた。毎日眺めた。そのうちに大相撲が大好きな私には土俵入りをしている大関稀勢の里のように映った。それは私が稀勢の里ファンであることと、19年間も日本人が横綱になっていないことからである。稀勢の里の強さは誰もが認めている。なのに、まだ優勝してない。これが不思議だった。「稀勢の里、早く優勝して横綱になってくれ」オオクワガタを見ているうちに、こんなことを思った。私がオオクワガタを初めて目にしたのは20代前半。故T氏が虫仲間数人に自慢しながら見せてくれたのである。その威厳ある姿に全員が圧倒されてしまった。私も欲しくなり、この虫仲間と競って探した。しかし、いつも空振り。そのうちに熱が冷め、いつしか頭の片隅で眠ってしまった。20数年前、それが目を覚ました。オオクワガタがマニアの乱獲や森林開発などで激減し、その状況がテレビ、新聞などで報道されたからである。数が少なくなれば価値が上がる。これに目を付けたのがペット業者。人工餌で大量に飼育してペットとして売らしたのである。ペットのオオクワガタは、野外のものよりはるかに大きく、まさにオオクワガタであった。そのオオクワガタを見て、私も飼育をして大きなオオクワガタを育てようと思った。しかし、止めた。飼育を始めるには予想以上に経費がかかるからである。当時、我が家は子育てで出費がかさみ家計は火の車。とても飼育できる環境ではなかった。しかし、オオクワガタを飼育したい。この思いは強かった。

× × × ×

再び稀勢の里の話。稀勢の里は入門当時から怪童と呼ばれ、とんとん拍子に出世をし、わずか2年で幕内に昇進した。まだ18歳だった。ところが、ここからが苦難の道。勝ったり負けたりで、優勝どころか三役に定着できないのである。6年後、ようやく大関になった。しかし、やはり優勝することが出来ない。この1番という大勝負になると負けてしまうのである。この頃から、稀勢の里はプレッシャーに弱いと言われるようになった。優勝するチャンスを何回も逃し、歳も30近くになった。横綱は無理だろう。稀勢の里ファンの私でも思った。I氏からオオクワガタをいただいたのはこの頃である。そのオオクワガタは飼育箱の中でほとんど動かない。それでいて威厳がある。この姿がまた稀勢の里のように映った。そのうちに稀勢の里が横綱になるにはまず優勝だ。それも次の場所で優勝することだ。いや絶対優勝して欲しいと願った。その大相撲九州場所が始まった。

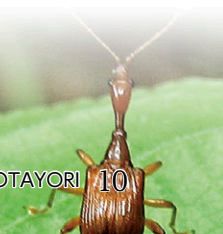
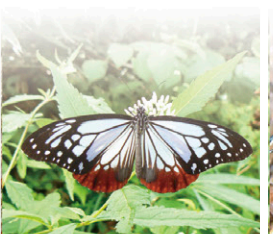
× × × ×

この年（2016年）も稀勢の里は優勝することができなかった。それでも毎場所好成績を残していたので、今場所の成績次第では、最も強い力士が受賞する年間最多勝が取れるチャンスであった。しかも、優勝すれば日本力士の横綱誕生。こんなことも言われていた。ところがこれがプレッシャーになったのか、途中で優勝争いから脱落してしまった。しかし、プレッシャーが無くなると強い。その後3横綱すべてに勝利し、年間最多勝を受賞。しかし、優勝を逃したので、横綱昇進は次の場所まで持ち越しとなった。



▲見るからに強そうなオオクワガタ

2017年1月、その場所が来た。稀勢の里は勝ち続け、14日目に優勝を決めた。ようやく大敵プレッシャーにも勝ったのである。初めての表彰式。今までの苦労が脳裏を去来したのであろう。大粒の涙が頬をつたい、それを手で拭いた姿。私も目頭が熱くなった。それから数日後、横綱に昇進した。その土俵入りが明治神宮で行われた。両手を広げて四股を踏む稀勢の里。貫禄があつた。オオクワガタが大きな角を誇示しているようであった。翌日、飼育しているオオクワガタを見た。飼育箱の中で土に埋もれてじっとしていた。連日寒波が襲い寒い日が続いているので、必死にその寒さに耐えているようであった。その姿はプレッシャーという重圧に耐えていた頃の稀勢の里のようであった。



# 岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校

岐阜市則武1816-1



施設全景

## 施設概要

事業年度	平成26・27年度（施工年度）
事業主体	岐阜県
構造・延床面積	鉄筋コンクリート造 5,652.01㎡
施設用途	特別支援学校
木材使用量 使用樹種	県産材使用量：18.16㎡ 主な使用樹種：スギ、ヒノキ、クリ
全体事業費	1,250,000千円
設計者	安井建築設計事務所・サニー建築設計JV
施工業者	1工区：大日本・岐建・市川特定JV 2工区：共栄・松永特定JV
工期	平成26年3月～平成27年7月

※上記は、全て1期工事分のみ。2期工事は、H31.3竣工予定。

## 施設の経緯

岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校は、昭和54年に開校した肢体不自由者を対象とする特別支援学校です。

併設された希望が丘学園（現希望が丘子ども医療福祉センター）との一体整備により、平成27年7月に1期工事が完了し、新築移転を行いました。

内装に岐阜県産のヒノキやスギをふんだんに利用した、木の香りあふれる校舎に生まれ変わりました。



廊下



希望が丘広場  
(ランチルーム)

## ここに注目!!

- 自然の光を校舎内に取り入れることで、各教室はひととき木の美しさが引き立つ空間となっています。

## 利用者の様子

- 子どもたちは、木の持つやさしさがあふれる新校舎で、明るく、元気に、生き生きと毎日を過ごしています。



授業の様子

### 問い合わせ先

岐阜県教育委員会特別支援教育課  
TEL 058-272-8751

# 白川町の森林づくり

白川町の森林づくり施策を紹介します。



## 森林の概要

白川町は岐阜県の中濃地域東部に位置しています。町の海拔は150mから1,223mと高低差が激しく、可住地は全体の5%程度で、森林面積が21千haと全体の9割を占めています。町民の歌にも「山脈四方に生き生き」と謳われているように、つつみこむ森林と共に生きる町です。

森林の内訳では、人工林が12千ha、天然林が8千haとなっております。人工林率は58%となっております。特に人工林に占めるヒノキ林の割合が全体の80%と、良質な「東濃松」を供給する林業・木材産業の盛んな町です。



▲良質な東濃松の集まる原木市場

## 森林・林業・木材産業の推進

本町では、林業センターを核とする木材団地に森林組合、原木市場組合、製品流通組合、産直住宅組合が集結しており、川上から川下まで連携可能な体制ができています。また、製品流通組合では、早くから木質バイオマス発電に取り組んでおり、木材団地は全国から多くの視察を受け入れ、町のPRにも貢献してきました。

しかし、近年のヒノキ需要の減少とそれに伴うヒノキ価格の下落により林業者の意欲が低下し、ヒノキを伐採する所有者が減少しています。そのため、良質なヒノキの出荷が少なくなり、製材工場の需要に応えきれない状況となっております。環境保全・資源供給源としての森林を維持するために、ヒノキの需要拡大など林業・木材産業の新たな展開を考えなければならぬと考えています。

## 森林づくり施策の紹介

本町で実施している特徴的な事業を紹介いたします。

①間伐材全量搬出事業  
町内の木材生産量拡大のため、利用間伐地から良質材だけでなく木質バイオ

マスまで全てを搬出する場合に助成。  
②道路景観整備事業  
道路の日照時間確保による冬の融雪・融氷効果を期待して、道路端10m以内の幅での伐採を実施。



▲道路景観整備事業で明るくなった道

- ③きのこ原木生産奨励補助金  
きのこ生産者が原木を購入する場合、県補助金に加えて町単独で助成。
- ④水源林公有林化事業  
森林・環境税を活用し、水源となっている森林を町有林化し、乱開発を防止。
- ⑤未利用間伐材搬出促進モデル事業  
森林所有者の利益を生む仕組みづくりとして、森林・環境税を活用し、木質バイオマス向けの木材搬出に助成。
- ⑥しらかわの家ひのき柱50本プレゼント事業  
白川産材等で住宅を建設する場合に町産のヒノキ柱を最大50本まで定額補助。平成29年度からは内装材加算を開始。

## 新たな取り組み

○循環型森林社会構築事業  
前述のように、白川町には各種木材関連施設が整い、地域内で連携した木材の流通が可能となっております。

そこで、今年度より循環型森林社会構築事業として、航空レーザー測量データを活用し、地形や森林資源情報の把握による森林資源情報マップの作成、森林資源活用計画の策定、森林認証取得や新たな木製品開発などに取り組み、これからの白川町の森林・林業・木材産業のあり方について検討をしているところです。

## 森林資源を活かす白川町へ

日本創成会議人口減少問題検討分科会が平成26年に発表した論文では、白川町は2040年までの「若年女性減少率」が岐阜県内で1位となっております。

今後の人口減少による地域林業・木材産業の担い手の減少が懸念され、またバイオマス関連施設の更新時期を迎えるなど、ソフト・ハード両面の課題が多くあります。

大きな森林資源がある町だからこそ、これらの課題を改善・解消し、森林を守り、林業・木材産業を維持・発展させ、活気ある町づくりを進める努力を続けていきます。



▲未来の担い手になるかも？



▲林業専用道

●詳しい内容を知りたい方は  
TEL 0574-1721-1311

白川町役場農林課まで

## 国有林の現場から 7

# ケーススタディ地区を 活動のテーマパークに 〜 民国が連携した活動を集中的に実施〜

岐阜森林管理署 主任地域林政調整官 大島 愛彦

平成28年度から林野庁の新しい取組として始まったケーススタディ地区について、1月の中部森林管理局（以下「中部局」）の発表会、2月の岐阜県森林・林業関係合同発表会で紹介しましたが、ケーススタディ地区の知名度向上を図るため、あらためて活動内容を紹介します。

### ケーススタディ地区とは

国有林では平成28年度から、県と国有林の森林総合監理士等の連携による生産性の向上や造林コストの低減など地域林業の課題解決に向け、ケーススタディ（事例研究）地区の取組を始めました。中部局管内で3箇所、うち岐阜森林管理署では加茂郡七宗町の森林共同施業団地を岐阜県第1号のケーススタディ地区に設定しました。

七宗町を選定した理由として、七宗町の木材生産を活性化するため、また、連携する県の利便性を考慮し、県庁所在地の岐阜市等に近く、現地検討会等の会場として参加しやすいと考えたからです。

ケーススタディ地区は6年間の計画です。初年度となる平成28年度は主に国で

各種取組を開始しましたので、まずはその取組内容を紹介します。

### 民国連携した木材生産

対象地区は、平成27年3月に七宗町、県森林組合などと森林整備推進協定を締結した森林共同施業団地で、27年度には森林組合が、国有林内に民有林へアクセスする林業専用道を開設しました。これまでに民有林の一部で路網が無い等の理由で木材生産が行われてきませんでした。民国連携の林業専用道を開設したことで民有林の木材生産が動き始めました。

平成28年度は民国ともに木材生産を実施し、民国協調したシステム販売による協調出荷を行いました。

国有林では、生産性向上実現プログラムによる林業事業体の生産性向上や労働安全の助言指導、有利採材現地研修会を開催しました。

### ニホンジカ対策

ニホンジカに民国の境はありません。七宗国有林を事例研究の場として、国有

林としてできること及び効果的な対策を検討しました。

個体数調整では猟友会への捕獲駆除の委託、囲い罠の設置、くくり罠の貸出等を行いました。

また、岐阜県初の国有林職員による捕獲の試行として、林野庁ネットワークを活用してニホンジカの目撃情報を収集し、そのデータを図面に落とし目撃情報の多い箇所にくくり罠を設置しました。狩猟期間前（11月）は成果をあげることはできませんでしたが、3月の銃猟による狩猟期間終了を待つて再開予定です。

併せてニホンジカ食害防除対策検討会を開催しました。この検討会はニホンジカ対策について国、県、市町村が情報共有を図り、意見交換を行うことを目的とするもので、県職員18名、市町村職員8名が参加しました。平成28年度は会場の関係で国有林のある市町村のみに人数を制限しましたが、来年度は岐阜県内すべての市町村を対象を広げて開催予定です。

ケーススタディ地区には中部局森林技術・支援センターがシカ対策試験地を設営し、造林地へシカを侵入させない、あるいは食害を防止するため、いろいろなタイプのシカ柵やツリーシェルターを設置して効果的な対策を検討しています。

### ケーススタディ地区への参加者求ム

2年目以降も民有林の模範となる林野庁や局の主な事業を優先的に投入し、民有林へ普及する研修会等を積極的に開催します。

また、県や市町村、林業事業体へ試験地の貸出や、研修会等への参加を促し、ケーススタディ地区を活動のテーマパークとして、民国連携のさらなる強化に努めていきます。

試験地の希望がありましたら気軽にご連絡ください。みなさまのケーススタディ地区への参加をお待ちしています。



▲ケーススタディ地区の図面

### 今後の課題

- 1 署員がケーススタディ地区を意識すること
- 2 ケーススタディ地区を活動のテーマパークに

国有林の取組	民有林への働きかけ
・民有林の模範となる林野庁や局の目玉事業を優先的に投入 ・研修会等を積極的に開催	・県や市町村、林業事業体へ試験地の貸出 ・研修会等へ参加の呼びかけ

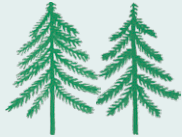
- ・それぞれの試験地に無理に関係性を持たせる必要はない
- ・当初設定した枠組みにとらわれる必要はない
- ・その時々で求められる事例研究の場として活用してもらい  
民国連携のさらなる強化につなげる

●詳しい内容を知りたい方は  
TEL 050-3160-6090(代)

岐阜森林管理署まで



# 可茂地域における普及実績について



■可茂農林事務所 林業課

林業普及指導員 小島 徳文

可茂地域での森林作業道開設、森林経営計画策定、高性能林業機械導入、素材生産量の状況について報告します。

## 森林作業道の開設

県では平成18年から「健全で豊かな森林づくりプロジェクト」を開始し、作業路網の整備と搬出間伐の促進に舵を取り始めました。管内では平成19年度から同プロジェクトに参入しました。さらには「地域森プロ」にも積極的に取り組む事業者も増え、森林作業道の開設実績は着実に増えていきました。(表1)

平成15年から18年ごろまでは年間、本数にして10本程度、開設延長は8km程度でしたが、平成19年末には68本、延長は20km近くと飛躍的に伸びました。その後も年間100本以上、延長は50kmを開設する地域に成長し、近年では、県下の総延長の1/4相当を開

(表1) 森林作業道開設実績 単位：本、m

年度	15	16	17	18	19	20	21
路線数	11	8	12	11	68	73	78
開設実績	4,709	5,850	8,275	8,182	19,767	32,417	36,151
年度	22	23	24	25	26	27	計
路線数	100	119	108	103	134	56	881
開設実績	46,537	59,241	52,356	44,525	58,876	44,707	421,593
県全体	196,670	241,038	176,455	225,527	263,987	147,257	

設するなど、可茂管内は森林作業道開設の先進地となったのです。この要因として、事業者が道づくりの大切さが浸透してきたことが挙げられますが、林業普及指導員の、様々な機会での事業者への「みち」の重要性の説明や、事業者担当者と一緒に進める現地踏査など地道な普及活動の成果によるものと考えています。

## 森林経営計画の策定



森林作業道の開設や森林整備、特に間伐を実施するための補助金を受けるためには、平成24年度から始まった森林経営計画制度に基づく「森林経営計画」(以下「経営計画」)の策定が必須条件となりました。このため、経営計画の策定支援が林業普及指導の重点項目に加わりました。経営計画策定のためには、その基となる「市町村森林整備計画」の策定が必要です。管内は平成の市町村合併が行われなかったため、10市町

村での市町村計画策定の支援を進めながらの経営計画策定支援です。平成28年度末での経営計画の策定実績(見込み)は表2のとおりです。

初年度の平成24年には、31件3,633haの樹立を達成できました。その後も2千ha強の計画策定を達成しましたが、平成27年度の策定予定面積を集計すると、大幅に落ち込むことが判りました。原因を求め、各事業体に聞き取り調査を行ったところ、補助金予算全体が減少し、これ以上経営計画を策定しても間伐等が実施できず、下限面積さえも達成できないのではないか心配しているという声が聞かれました。

このため、我々林業普及指導員で平成26年度末の策定状況を分析することとしました。市町村毎に人工林対象面積に対する計画策定率を整理してみました。結果、ほとんどの町村が40%台の策定率でしたが、1町だけ18%と非常に低い数値であることが判明しました。まずはこの部分から改善しようと

(表2) 森林経営計画策定面積 単位：件、ha

年度	24	25	26	27	28	計
件数	31	23	15	3	8	80
面積	3,633	2,658	2,244	1,248	630	10,413

平成27年当初に、町担当者と一緒に該当事業体に対して現状把握、策定にあたっての課題、今後の方針について意見交換を行い、対応を検討しました。しかし、事業体からは、「地形が急峻で対象面積はもつと少ない」、「今の事業量で自分の所では手一杯だ」など後ろ向きな言い訳しか聞かえてきません。一方、この町で開催された地元座談会に向くと、森林所有者からは、「うちの山はいつ頃間伐してくれるのか」という要望が直接だされます。こうした矛盾した状態を解消するためにも、これからも引き続き経営計画の策定、森林整備の推進を支援していきたいと考えています。

### 高性能林業機械の導入

経営計画に基づき、森林作業道を開設し間伐材を搬出するためには、伐採・搬出機械の導入が不可欠です。管内において、既存の事業体の搬出チームの増強や新たな林業事業体の設立の動きがあり、林業構造改善事業を活用した高性能林業機械の導入を支援しました。平成24年の2事業体でのハーベスタとプロセッサの導入を皮切りに、平成26年には、森林組合以外の2事業体へのプロセッサなどの導入、平成28年には、新たに会社を立ち上げた事業体へのハーベスタ導入を支援しました。

セッサなどの伐木・造材機械と、スイングヤーダ、タワヤーダなどの搬出機械をセットで所有する搬出チームを着実に増やしていくことが出来ました。平成28年度末の管内での高性能林業機械保有台数は、38台となっています(表3)。



(表3) 高性能林業機械導入状況

年度	24	25	26	27	28	総数
ハーベスタ	1	1		1	2	5
プロセッサ	1	3	1	1		7
フェロパンチャ		1				1
スイングヤーダ		1				6
タワヤーダ					2	2
グラブフル				1		10
フォワーダ		1	2	1		7
計	2	7	3	4	4	38

### 素材生産量

管内の木材生産量を把握するため、平成25年度から、管内の4森林組合と2林業事業体から2ヶ月毎に素材生産量の実績を報告してもらっています。

平成25年には、計画量の29,350 m<sup>3</sup>に対して33,607 m<sup>3</sup>と、実績が計画量を上回っています。その後も生産量は順調に増加し、平成28年度末には県下の総生産量の10%程度にあたる45,800 m<sup>3</sup>が見込まれています。(表4)

これは、経営計画の策定、森林作業道の開設や高性能林業機械の導入などへの一連の支援により、生産体制が強化されてきたこと。一方、A材については管内の2つの木材市場へ、ヒノキのB材については隣接する中津川市の「森の合板」工場へ、また、CD材については管内での需要先や、さらには瑞穂市の「木質バイオマス発電」や八百津町に木質チップ工場も出来たことなどにより、安定的な需要先が確保されたことによる相乗効果によるものと考えられます。

(表4) 素材生産量

年度	単位：m <sup>3</sup>				計	
	25	26	27	28		
材積	計画	29,350	27,500	32,800	39,400	129,050
	実績	33,607	29,382	39,206	45,800	147,995

### おわりに

管内の市町村職員は日頃から色々な業務があり、なかなか腰を据えて市町村森林整備計画や森林経営計画などについて向き合うことが困難となっています。森林組合も、少ない人数で組合員のための森林整備を行っていく必要があります。民間の事業体については活発に素材生産に取り組んでいます。一方で、自伐林家も多く存在する管内でもあり、地域林業を活性化させるためには、それぞれの立場・課題に応じたこれまでに以上の支援が必要だと考えます。

平成29年度から第3期「岐阜県森林づくり基本計画」がスタートします。100年先の森林づくり、主伐、再造林に向けた取り組みなど、大きな課題に立ち向かっていかなければなりません。これまでに整備した森林作業道という財産を活用して、森林整備に対する支援を持続的に行っていきます。

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0574-251311(代) 内線421

可茂農林事務所 林業課まで



# 平成28年度 岐阜県森林・林業関係 合同発表会（発表紹介）



先月号での概要紹介に続き、「平成28年度岐阜県森林・林業関係合同発表会」の全8課題について、発表内容を紹介します。

## 第1部 林業普及活動実績発表

### 「木の駅プロジェクトの活動支援」

●中濃農林事務所

林業普及指導員 清水力  
関市では、森林内に放置されている未利用材の有効利用と地域通貨による地元商店の活性化が期待できる「木の駅プロジェクト」の導入に強い意欲を示し、林業普及指導員の支援の下、このプロジェクトをスタートすることができました。

発表では、先進地情報の収集・共有に始まり、関市や地元林業グループと連携してのプロジェクトの仕組みづくりやルールづくり、活動組織「木の駅inつぼがわ」の立



ち上げや作業の安全を確保する研修会の実施などの取組が紹介されました。

### 「木材生産能力の向上の取組」

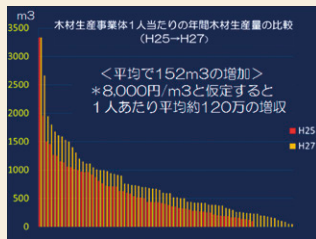
●岐阜県立森林文化アカデミー

森林技術開発・支援センター

林業普及指導員 河原誠二

素材生産を実施する上で、生産性を向上させることは重要であり、素材生産の各工程に応じて開発されている林業機械を、有効に活用することが、鍵となります。岐阜県では、木材生産事業体の木材生産能力を把握するため、森林技術者1人当たりの年間木材生産量と林業機械の保有状況と生産性を、毎年調査しています。

発表では、調査データを分析した結果、平成25年度と平成27年度を比較すると木材生産事業体1人当たりの年間木材生産量は平均152m<sup>3</sup>増加し、1人当たり平均で約120万円の増収となり、木材生産能力



は高まっていること。このような解析データは、情報共有することが重要であり、今後は、林業普及指導資料として活用するとともに、分析結果を林業事業体に還元し、改善を求めていくなどの紹介がありました。

## 第2部 国有林野業務発表

### 「ケーススタディ地区を活動のテーマパークに」

●中部森林管理局 岐阜森林管理署

主任地域林政調整官 大島愛彦

林野庁では、平成28年度から国有林の森林総合監理士等が市町村への協力を推進するため、ケーススタディ（事例研究）地区の取り組みを始め、岐阜県第1号のケーススタディ地区として加茂郡七宗町の森林共同施業団地を設定し、民国が連携した取り組みが行われています。

発表では、七宗町の木材生産を活性化させるため、集材工程や運搬回数の削減など生産性向上実現プログラムにより生産性が向上した事例や各々の技術者がトランシーバを携帯することで労働安全だけでなく、各工程の進捗状況の把握が可能になることが紹介されました。

1 民国連携した木材生産  
(2) 生産性向上実現プログラム

・林業事業体の生産性向上  
目標：5.10 m<sup>3</sup>/人日 → 実績：8.93 m<sup>3</sup>/人日

① 集材工程削減（プロセッサ使用）  
② 運搬回数削減（フォワード大型化）  
③ 作業効率強化（トランシーバ使用）

ンジカ対策では、七宗国有林を事例研究の場として提供し、囲い罫の設置や食害防止資材の検証研修会実施などの紹介がありました。

## 第3部 森林研究所研究・成果発表

### 「アベマキ材の乾燥と利用」

●岐阜県森林研究所

専門研究員 土肥基生

美濃加茂市では、県産広葉樹のアベマキ材を学童机等に利用する取り組みが始まっています。しかし、アベマキ材を利用する上で、正確な資源量が不明であることや、木材加工技術が確立されていないことが問題となっています。

そこで、岐阜県森林研究所、森林文化アカデミー、美濃加茂市、可茂森林組合、中部大学、民間企業が連携して問題解決に取り組むことになりました。森林研究所では、木材を加工するためには適切な木材乾燥工程が不可欠であることから、アベマキ材の乾燥工程の違いによる形状変化や乾燥期間を比較検証しました。

発表では、天然乾燥と蒸気式木材乾燥機による中温乾燥での乾燥状況の把握と両者を組み合わせることによる効果的な乾燥スケジュールの構築などの取り組みの紹介がありました。





## 「商品力アップを目指したシイタケ 変色抑制技術の開発について」

●岐阜県森林研究所

専門研究員 上辻久敏

シイタケは、鮮度が低下し始めると傘の裏のヒダや柄の切口が変色します。近年、商品出荷後にパック内でシイタケが変色する事例は、全国で発生しており、問題となつていきます。そのことで生シイタケの商品力の低下が叫ばれていることから、生シイタケを変色させずに出荷する技術が急務となつていきます。

発表では、シイタケの変色メカニズムを明らかにするとともに、原因物質と思われる酸素の供給を抑制することで変色防止の効果が見られたことから、通常のパック包装及び段ボール包装など商品流通ルート内での技術手法を実証した結果の紹介がありました。



## 第4部 森林文化アカデミー課題研究発表

### 「クラウドデータベースによる林業従事者向け労務管理システム」

●岐阜県立森林文化アカデミー

森と木のクリエーター科2年

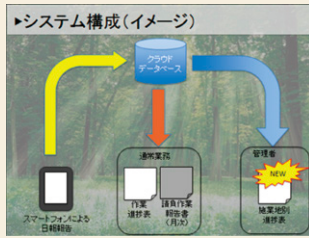
國枝裕介

標準伐期齢を迎える人工林の増加に

伴い、皆伐施業が可能となる施業地は増加するものの、林業従事者は高齢化等で減少する傾向にあります。

発表では、ICT（情報通信技術）を活用して、効率的な施業管理を行うことが提案されました。

素材生産業者の横連携の促進を図り、かつ、利用できる材積の予測をするためには、労務情報の集約化と共有が有効であること。そのためには、日々の日報をクラウドデータベースに蓄積することで可能となり、その集約された日報情報から各工程別の作業進捗の把握ができることや後々の計画立案や工数の見積もりにも生かすことができるなどの紹介がありました。



## 第5部 農林高校生課題研究発表

### 「船来山植生調査について」

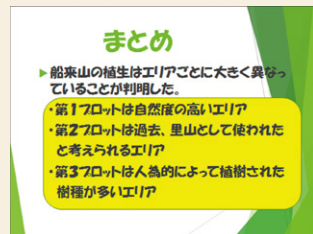
●岐阜県立岐阜農林高等学校  
森林科学科3年

河野祥規、工藤康太、宮川紘輔、早川一矢

本県市では、3〜7世紀の古墳が290基発見された船来山を古墳公園として整備し、文化遺産登録を目指しています。しかし、古墳群のある船来山の植生がどのような構成になつてい

るかには調べられていません。そこで、森林科学科植生調査班では、船来山の植生を調査することにしました。

発表では、船来山の植生を把握するため、船来山の中で林層の違う3つのエリアを調査し、エリア毎の植生のポイントをとるとともに今後の課題についての紹介がありました。



## 第6部 官学共同研究発表

### 「シカの捕獲を取り巻く状況について」

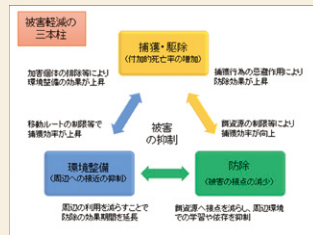
●岐阜大学応用生物科学部附属  
野生動物管理学研究センター

特任助教 森元 萌弥

近年、ニホンジカの生息数と生息区域が急速に拡大し、広い範囲でニホンジカの被害が増えています。しかし、シカ被害対策の一つである捕獲は、担ってきた狩猟者の高齢化が進むとともに事業者が主体的に捕獲を実施することが少ない現状にあります。

発表では、急速に増加しているニホンジカについて、捕獲をより中心に考えた計画が必要であることから、間伐材や枝でシカの移動ルートを制限する

ことや、施業のついでにシカの埋める穴を開けておくなどの事例が紹介されました。また、自動撮影カメラを利用して、メスが存在する場所を調べることや、シカの警戒心と畏の回避具合を知るなど、他人に任せず、自分たちのことと認識して欲しいとの提案がありました。



発表会には200名程の方々に参加いただきました。参加者からは、地域の抱える課題に対する取り組みや最新の研究成果など非常に興味深い内容だった等の多くの感想をいただきました。発表会の運営に対するご意見につきましては、今後の開催に活かしていきたいと思っております。発表者の方々や参加者、関係者の皆様ありがとうございました。

### 「森林技術開発・支援センター」

井戸 好美

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-351-2535

森林技術開発・支援センターまで

# 治山林道研究発表会

## 治山研究発表課題

### 【最優秀賞】

「治山事業における針広混交林への取り組みについて」	恵那農林事務所 神戸 努
<p>近年、水源地域等の山林では、手入れ不足から人工林の高齢化・過密化が進んでおり、公益的機能の低下に伴う土砂等の流出が懸念されている。このような状況を踏まえ、中津川市中津川前山地区内において実施している手入れ不足ヒノキ林（41 ha）の育成複層林（針広混交林）化への取り組み事例を紹介。</p>	

### 【優秀賞】

既設治山ダムの嵩上げについての一考察	下呂農林事務所 熊崎 尚弥
<p>近年、治山事業において公共・県単事業ともに既設治山ダムの機能強化を目的としたダムの嵩上げが実施されている。このような嵩上工は、現場条件や既設の形状等により様々な構造のものが施工されており、今後の設計の参考とするため複数の事例を紹介。</p>	

### 【優秀賞】

既設谷止工における一考察	中濃農林事務所 大坪 武司
<p>昭和38年度施工の玉石コンクリート製の谷止工（治山ダム）の嵩上げ工を行う際の、施工に対する注意事項等とその事例を紹介。</p>	

現地発生木材を活用した治山ダム型枠の経年変化	岐阜農林事務所 村井 弘人
<p>平成16年度の森林整備で発生した木材を、同じ流域内で施工する治山ダム型枠に利用した。施工後12年が経過した状況の調査結果を紹介。</p>	

## 写真コンクール

治山、林道事業の効果を県民により深く理解してもらうと同時に、治山施設・森林整備等の重要性和林道の活用をPRすることを目的として、写真コンクールを実施しました。治山部門49件、林道部門27件の応募の中から最優秀賞を表彰しました。

### 【林道部門最優秀賞】

**森林施業に活かされる林道**



**場所** 恵那市 岩村町地内  
**撮影者** 恵那農林事務所 大藪 絢香

### 【治山部門最優秀賞】

**山腹崩壊地の復旧**



**場所** 高山市 岩井町 野畑地内  
**撮影者** 飛騨農林事務所 加藤 雅之

※研究課題の詳細については今後「森林のたより」にて掲載していく予定です。

【森林整備課 木島 光雅、治山課 林 和正】

岐阜県治山林道研究発表会は、治山研究会員、林道研究会員が、治山、林道事業の業務に携わる中で直面する課題について、調査、研究した成果を発表するもので、治山研究会と林道研究会が合同で開催するようになり今年度で18回目、個別では治山研究発表会が52回目、林道研究発表会が45回目を迎えました。

平成29年2月10日に約140名が参加して、関市わかさプラザ多目的ホールにおいて開催し、治山部門、林道部門で各4題の発表があり、いずれも今後の森林土木技術の向上が期待される充実した内容でした。

発表終了後には、森林研究所の臼田専門研究員から「治山林道事業における航空レーザ計測データの活用」と題した研究成果の発表がありました。

本会の最後には、審査員長である国立大学法人岐阜大学名誉教授の木村正信氏から研究発表内容に対する改善点を含めた講評の後、治山、林道両部門の最優秀賞及び優秀賞の表彰で本会を終了しました。



## 林道研究発表課題

### 【最優秀賞】

<b>補強土壁に係る路面排水の一考察</b>	郡上農林事務所 後藤 真希
集中豪雨により補強土壁が3箇所被災を受けた。その被災に至った過程の考察及び、防止対策について検討した結果を報告。	

### 【優秀賞】

<b>丸太伏工施工後の経年変化と効果について</b>	恵那農林事務所 大藪 絢香
平成17年度～27年度施工の丸太伏工にプロットを設置。植被率、腐朽状況等の調査結果から丸太伏工の効果持続年数、管理方法について考察した結果を報告。	

### 【優秀賞】

<b>原点回帰：欧州に学ぶ安価で丈夫な道づくり</b>	飛騨農林事務所 中谷 和司
日本の基準に適応させつつ平成23年度に林業先進地である欧州の道づくり（屋根型構造）を開発した。開設後5年経過した状況を踏まえ、屋根型構造の道づくりの考え方と有効性について報告。	

<b>路側構造物傾倒の原因究明と対処方法</b>	揖斐農林事務所 安達 孝博
林道三倉～上ヶ流線において、路側構造物が傾倒したため、原因の究明と対策工法の検討結果を報告。	



写真-1 会場の様子



写真-2 治山部門表彰



写真-3 林道部門表彰

## 減圧して木材を速く乾かす

森林研究所 ● 土肥 基生

スギやヒノキの大径材から製材した平角材を、木造住宅の構造材として使う事例が増えてきました。しかし、断面が大きいことや、特にスギの場合は初期含水率が比較的高いため、乾燥には時間が掛かります。乾燥を短時間で仕上げるには温度を上げればよいのですが、極端な操作を行うと、木材の内部で割れが発生したり、強度自体の低下が危惧されます。そこで当所に平成27年1月に導入した減圧式木材乾燥機を使って、材料への損傷が少なく、かつ乾燥速度を速くできる減圧式木材乾燥技術の開発を行っています。

### 減圧下で木材の乾燥速度を保つには

減圧すると乾燥が早くなるのは沸点が下がるからです。しかし、木材から水分が蒸発する時に気化熱が奪われ木材自体の温度が下がるため、外から熱を与えないと乾燥が進みにくくなります。当所の装置は一般的な蒸気式乾燥機と同じように釜の中で熱風を循環させて木材に熱を伝えていきます。この方法では、減圧して空気が薄くなった時に、減圧しない場合と比べて熱が伝わりにくいことが危惧されます。このた

め、乾燥機には一定の時間間隔で復圧（気圧を外気圧に戻す）して木材の温度上昇を促す機能も備わっています。しかし、乾燥速度に与える影響はよく判っていません。

### 最適な減圧条件は？

スギの平角を用いて異なる減圧条件での乾燥速度等を比較する試験を行いました。この結果、一定間隔で単に復圧する（図1の「復圧A」）だけでは乾燥速度の向上効果はなく、復圧時に設定温度を10〜20℃上乗せした場合（「復圧B」）には、平角の断面中心部の温度が高く保たれ、乾燥日数も短縮されました（図2、図1）。しかしこの条件では、乾燥後の材色が全体的に暗くなり（図3）、減圧乾燥のメリットを活かせない結果となりました。

これらを勘案すると、熱風循環式の減圧乾燥を行う場合は、復圧工程は入れずに常時減圧で乾燥させたほうがよいという結論になりました。この試験ではスギの心去り平角材を対象としましたが、今回の結果はスギの心持ち平角材や同じ針葉樹であるヒノキにも適用できると考えています。県産材製品の高品質化に向けて減圧乾

乾燥スケジュールの開発を更に進めていきます。

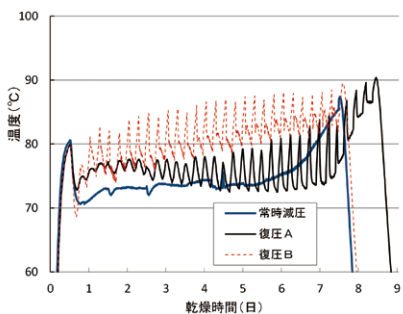


図2 減圧条件別の材温の推移  
測定箇所は平角断面の中心部

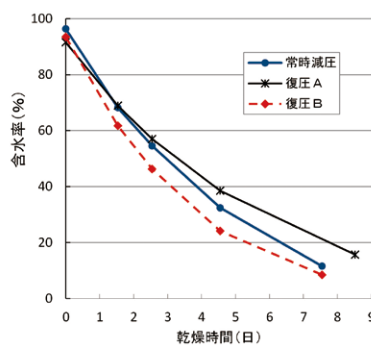


図1 減圧条件別の乾燥曲線

常時減圧は0.3気圧一定  
復圧Aは、6時間中に2時間復圧  
復圧Bは、6時間中に2時間復圧し、  
復圧時温度を10〜20℃上乗せ

試験材はスギ心去り平角  
(130×210mm)  
乾燥温度80℃～90℃

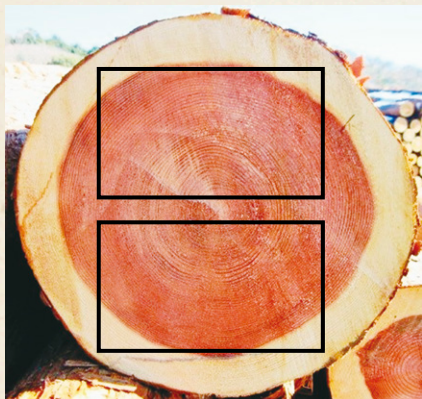


写真 試験材の木取り

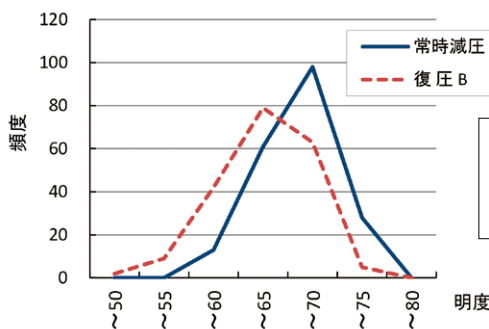


図3 減圧条件別の心材色の頻度分布

復圧Bでは、明度の値が低い方に分布しており、心材部の色が暗くなったことを示している。

詳しい内容を知りたい方は  
TEL 0575-1331-2585

森林研究所まで

# 森林を取得したときは 市町村への届出が必要です!



新たに森林を取得したときは、森林法の定めにより届出が必要です。 (注)立木のみを取得した場合は、届出は不要です。

## 1 なぜ届出が必要?

森林の所有者が分からないと、行政が森林の所有者に対して森林の整備等に関する助言ができません。また事業体が間伐等を行う場合に、所有者に働きかけて効率の良い作業を行うことができません。こうしたことから森林の所有者の把握が必要です。

## 2 どのような場合に届出が必要?

個人か法人かによらず、売買、相続、贈与等で新たに森林を取得した場合に必要です。ただし、国土利用計画法に基づく土地売買契約の届出を行った場合は、森林の土地の所有者届出は不要です。

## 3 どんな森林が届出の対象?

都道府県が作成する地域森林計画の対象となっている森林が対象です。岐阜県内の地域森林計画対象森林の区域については、県ホームページ(「ぎふふおれナビ」で検索)、県庁林政課、各農林事務所林業課、市町村林務担当課で確認できます。

## 4 いつ、どこへ届出を出すの?

所有者となった日から90日以内に、取得した森林のある市町村の窓口へ届出書を提出してください。

## 5 どのような届出書を提出するの?

「森林の土地の所有者届出書」に次の書類を添付して提出してください。

- 添付書類 ①取得した森林の位置を示す図面(任意の図面に大まかな位置を記入)  
②取得した森林の登記事項証明書、売買契約書の写しなど権利を取得したことがわかる書類
- 届出書の様式など詳しくは、林野庁のホームページ(「森林の土地の所有者届出制度」で検索)をご覧ください。

## 6 もし、届出を出さないとは?

届出をしない、または虚偽の届出をしたときは、10万円以下の過料が科されることがあります。

【林政課 松下 康弘】 ●お問い合わせは、市町村林務担当課または県庁林政課森林計画係 TEL 058-272-8471 まで

## 森林・林業関係イベントカレンダー (5月)

林業者向け

開催日	行事名等	内容等	開催場所 問い合わせ先
5月2日(火)	チェーンソーを用いて 行う伐木等の業務従事者 (3~5年従事者) 安全衛生教育	●講習時間: 9:00~16:00 学科・実技 ●申 込: 開催日の2週間前まで ●受講料: 11,500円(本代含む)(振込み) ●定 員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	岐阜県森連岐阜支所 (関市倉知字物見山4660-16) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話:058-275-0192/FAX:058-201-1195
5月17日(水)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	●講習時間: 9:30~15:30 学科 15:30~16:30 実技 ●申 込: 開催日の10日前まで ●受講料: 11,340円(本代含む)(振込み) ●定 員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	岐阜県森連飛騨支所(高山市新宮町112-7) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話:058-275-0192/FAX:058-201-1195
5月18日(木)~ 5月19日(金)	伐木・チェーンソー 作業従事者特別教育	●講習時間: 18日 8:30~17:40 学科 19日 8:30~17:30 実技 ●申 込: 開催日の10日前まで ●受講料: 18,900円(本代含む)(振込み) ●定 員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	岐阜県森連飛騨支所(高山市新宮町112-7) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話:058-275-0192/FAX:058-201-1195



**コラム** 4月を迎え、桜のたよりとともに、新たなスタートの季節になりました。森林のたよりの読者の皆様も就職や人事異動などそれぞれの立場で新たなスタートをきられ、職場でも周囲を見渡すと新しい面々の姿が目に入ってくるのではないのでしょうか。

県の林政では、新たな森林づくり基本計画や清流の国ぎふ森林・環境税の延長により、100年先の森林づくりを目指して新たなスタートとなる年ではないかと思えます。

しかし、新たなスタートの礎は、今まで培ってきたものであり、森林づくりでは、先人が育んできた資源を健全な姿で次の世代へ引き継ぐということが私たちに求められています。

岐阜県緑化推進委員会でも緑を増やし育てることに加え、緑に対する新たな要請にも心を配りながら、緑化の推進に取り組んでいきたいと思っています。

(現在、春の緑の募金を行っていますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。)

公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 黒崎 隆司

### イベント情報

#### 連載

- 山の歳時記(141)
- 山のおじゃまむし(310)

#### 清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵(53)

#### 木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(53)

#### 地域の人

#### 清流の国ぎふ森林・環境税

#### わがまちの森林・環境行政(5)

#### 森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

#### 市況情報

#### その他

5月1日発行

5月号  
予定

## 木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1624回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	12,200	—	単価は直材 価格、但し 平均値は並 材二番玉価 格
			16~18cm	10,300	—	
		4 m	20~22cm	11,500	—	
			24~28cm	11,600	14,500	
			30cm以上	12,600	17,000	
	3月14日 ひのき	3 m	16~18cm	17,100	—	
			20cm以上	15,500	—	
		4 m	16~22cm	16,600	—	
			24~28cm	14,000	—	
			30cm以上	17,500	41,800	
第1203回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~18cm	11,500	—	
			22~28cm	11,000	—	
		30cm以上	12,000	15,000		
	ひのき	3 m	16~18cm	17,000	—	
			20~22cm	16,000	—	
		4 m	24~28cm	14,000	—	
	30cm以上		17,000	90,000		
	3月8日 まつ	4 m	24~28cm	11,000	—	
			30cm以上	12,000	22,000	
		ひめこ	4 m	24~28cm	15,000	—
30cm以上			16,000	25,000		
くり		4 m	24cm以上	22,000	28,500	
第1536回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~20cm	12,200	13,100	
			22~28cm	11,900	13,400	
		30cm以上元	13,400	17,000		
	ひのき	3 m	16~20cm	17,000	22,000	
			22~28cm	15,000	19,700	
		4 m	30cm以上元	20,500	35,000	
			13cm以下	9,000	—	
			22~28cm	14,900	20,200	
	3月9日 まつ	4 m	30cm以上元	22,000	47,000	
			18~20cm	27,000	29,900	
まつ	4 m	22~28cm梁	7,500	—		
		30cm以上元	10,000	—		

## 木材市場

### 全般的に横ばいで推移

#### 【商況】

スギ4m良材は強含み、並材は4m、3m(16~22cm)が不足しており強含み。スギ合板向け4m(18~42cm)は不足。ヒノキは並材の柱、土台はともに需要あり、造材は、4m(16~22cm)が有利。長良川木材事業協同組合(白鳥)向けスギ、ヒノキ直送受付しています。(岐阜)

スギ良材は応札が多く人気。ヒメコ中目以上、広葉樹も応札が多い。スギ、ヒノキ並材3m、4m(16~24cm)が横ばい。合板向けスギ4mが不足。マツ、ヒメコは横ばいで推移したが、弱くなる時期に入りましたので早期出材を勧めます。(飛騨)

ヒノキ元木良材(高齢材及び枝打材(特殊材))2m・3m・4m・6mは応札も多く価格安定。ヒノキ並材は3m(16~28cm)、4m(16~28cm)横ばい、6m(16~20cm)価格安定。スギは全般的に品薄、4m元木良材は応札多くやや高値、二番玉並材は3m、4mとも(16~28cm)横ばい。枝虫材等、欠点材は売りにくい。(東濃)

#### 製品卸売標準価格 (2月期)

(単位:円)

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m <sup>3</sup> 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	65,000	( 2,150)	→
	間柱	3000	105	30	1等	65,000	( 614)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	70,000	( 3,087)	↑
	柱	3000	120	120	特等	65,000	( 2,808)	→
		3000	120	120	(東濃松) 特等	70,000	( 3,024)	→
		6000	120	120	特等	120,000	(10,368)	→
W集 ウ成 ド材	柱	3000	105	105	国産5層	59,000	( 1,950)	→
		3000	120	120	国産5層	60,000	( 2,580)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

#### 外材市況 (2月期)

1㎡当り(価格単価:100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	284	米栂	へム(アラスカ産)	281
	コースト(目荒)	299	米ひば	ポール	288

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

### ラーメン工法

木材用語一口メモ

柱、梁の接合部を剛接合(外力が加わり部材が変形しても接合部が変形しない接合方法)で一体化したもの。ラーメンはドイツ語で枠を意味します。斜材を必要としないため、大空間が設けられるメリットがあります。木造でも接合金物による半剛接による構法が開発され、普及が進んでいます。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建築用語辞典

